

令和三年度 国語 (文学科 日本語日本文学専攻) 解答例

一 (一〇〇点)

問一 ① けいはつ ② ちゆ ③ 丁寧 ④ 微妙 ⑤ せんさい ⑥ 没頭 ⑦ 尋 ⑧ いやみ
⑨ ようさい ⑩ 切実 ⑪ 違和 ⑫ 委 (二十四点)

問二 遊びは楽しいことであるので、自分が楽しいと思うことを仕事にすればよい。(八点)

問三 遊ぶことによつて、患者と治療者の領域は重なり合うのであり、遊ぶことができるようになることは、自己と他者を重ね、他者に依存し、他者に身を預ける能力を回復することである。そのため、患者を遊べる状態に導くことが治療につながる。(二十点)

問四 中間 (五点)

問五 精神的に母親に依存し、身を預けることができている状態。(八点)

問六 少年が、砂の城を、本気でロボット帝国の要塞と考えているなら、現実と想像の区別が
ついていないことを示し、少年の精神が正常であると言えなくなるから。(十五点)

問七 他者に自分を重ねることができるようになること。(八点)

問八 依存するから遊べるのか、遊ぶから依存できるのか、どちらが先か突き止めることがで
きない事態。(十二点)

二 (六〇点)

問一 ウ 強意 (念押し) の終助詞「かし」の一部。(十点)

問二 その時々賞賛しない人がいただろうか、いや皆が賞賛した。(十点)

問三 桜の花の色つやも、まことに中将 (維盛) のすばらしさには圧倒されてしまいそうで
(十点)

問四 思へ (五点)

問五 資盛と同様に思うということがあろうか、そうは思うまい。(十点)

問六 春の花の美しさにたとえた維盛様のお姿は、身を投げておしまいになった波の底で朽ち
てしまった。(十五点)

三 (四〇点)

問一 きかつよりはなはだし (九点)

問二 もしかすると遠くの人には近くの人に及ばないかもしれない (十点)

問三 ア ア イ (九点)

問四 耳はうわさでしか聞いたことのない人のことで、遙とともに遠くにいる人を指し、世間
の人は重視している。目は身近で会って見たことがある人のことで、近とともに近くに
いる人を指し、世間の人は軽視している。(十二点)